

令和 7 年度第 1 回大阪府総合教育会議

議事録

日 時 令和 7 年 8 月 18 日（月）午後 4 時 00 分から午後 5 時 00 分まで

場 所 本館 5 階 議会特別会議室（大）

出席者 知事 吉村 洋文
教育長 水野 達朗
教育委員 中井 孝典
教育委員 尾崎 えり子
教育委員 竹内 理
教育委員 森口 久子

1. 開会

(司会・野村企画室長)

- ・ただいまから、令和7年度第1回大阪府総合教育会議を開催いたします。
- ・皆様にはお忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。
- ・私は進行を務めます、大阪府政策企画部企画室長の野村でございます。よろしくお願いいたします。
- ・本会議は、地方教育行政の組織および運営に関する法律第1条の4の規定に基づき設置しております。
- ・本会議は公開で行い、インターネットによる配信をしております。資料につきましては、机上の端末にてご覧ください。
- ・それでは、本日のご出席の皆様をご紹介します。吉村知事でございます。水野教育長でございます。リモートでのご出席となります、中井委員でございます。尾崎委員でございます。竹内委員でございます。森口委員でございます。なお、井上委員におかれましては、本日ご欠席でございます。

2. 議事 府立高校改革の方向性について

(司会・野村企画室長)

- ・それでは、早速議事に移ります。
- ・本日は、本年秋頃の策定を予定しております、「府立高校改革アクションプランについて」を議題いたします。
- ・まずは資料3により、教育庁から説明をお願いします。

(教育庁)

- ・教育庁教育振興室長の内藤でございます。資料3「府立高校改革アクションプラン」に沿ってご説明をさせていただきます。
- ・机上の端末に格納されておりますスライドの右下にページ番号を付しておりますので、そちらを参照いただきながら、ご覧ください。
- ・まずスライド1ページが、コンテンツとなっております。各項目をご説明させていただきます。
- ・2ページから、まずは府立高校改革アクションプランの概要のご説明に入らせていただきます。
- ・3ページをご覧ください。
- ・高校進学ニーズの変化や配慮を要する生徒の増加など、府立高校を取り巻く環境の変化に対応していくため、府立高校改革の大きな方向性を示す「府立高校改革グランドデザイン」を令和7年3月に策定いたしました。
- ・ここに掲げる改革を具体的に進めるため、今般、アクションプランを本年秋に策定する予定としております。
- ・次に4ページでございます。
- ・社会の急激な変化に伴いまして子どもたちが身に付ける資質・能力も変化しているため、府立高校も将来を見据えて今取り組むべきことを検討することが必要と考えております。
- ・加えて、私立高校も含めた高校等の授業料完全無償化により、子どもたちの学校選択の幅が広がっている中、公私が切磋琢磨し、大阪の教育の質を向上させていくことが必要と考えております。

- ・そこでアクションプランには、学校改革に関わる具体策と学校配置等の方向性を記載することにして
おります。
- ・5 ページ、学校改革について以下、ご説明させていただきます。
- ・6 ページに移ってください。
- ・本日の会議では、府立高校の魅力化・特色化を推進するため、本日の会議で特に議論していただき
たいポイントとして、5 項目示させていただいております。
1. 探究的な学びの推進、2. 英語力の向上、3. 時代に即した産業人材の育成、4. 不登校生徒の
学びのアクセス、5. 日本語指導が必要な生徒への支援の充実、と 5 つに絞り込んでご議論いただ
くということを考えております。
- ・7 ページをご覧ください。
- ・まず水色のリード文でございますが、探究的な学びの推進として、グローバルリーダーズハイスク
ールにおきまして、国公立大学・企業等と連携した課題研究等を推進してまいります。
- ・また、新たな普通科におきましても、文理融合した探究的な学びの充実を図ることで、普通科にお
ける特色ある学びの変革を推進してまいりたいと思っております。
- ・8 ページをご覧ください。
- ・具体的な取組のところに書かせていただいておりますが、全学科共通の取組といたしまして、府立高
校全校において海外姉妹校提携を進め、臆せず積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとするマ
インドを育成していきたい。さらに、国際関係学科の取組といたしまして、国際理解教育に加え、探
求活動の充実、そして少人数指導による語学教育の充実を図ってまいりたいとしております。
- ・9 ページでございます。
- ・具体的な取組をご覧ください。
- ・工業系高校につきまして、令和 10 年度に新校を開校し、技術革新が進む産業界に求められる人材の
育成、こちらを図ってまいりたいと考えております。
- ・また、教育内容の充実等といたしまして、地域、そして企業、大学等と連携し、デジタル技術、A I
等の最先端技術等に対応したカリキュラムの改編、併せて実習機器・装置の導入を進めたいとも考
えております。
- ・10 ページ、水色の部分でございます。
- ・商業系高校におきましては、刻々とビジネス環境が変化する中で、大学や企業と連携し、社会の変
化を見据えた実践的な学びについて検討したいと記させていただきました。
- ・また、農業系高校につきましては、農業を取り巻く環境が大きく変化する中で、科学的な知見を持
って社会情勢や環境変化に対応できる人材育成に向けて検討を進めたいとしております。
- ・11 ページでございます。
- ・具体的な取組の項目をご覧ください。不登校生徒の支援、これを全ての府立高校で充実させること
に加えまして、少人数かつ一人一人の状況に応じて、多様で柔軟な学びを提供する学びの多様化学校、
こちらを令和 8 年度に設置していきます。
- ・続きまして 12 ページでございます。

- ・具体的な取組に記載させていただきました日本語指導が必要な生徒への支援を充実させるため、大阪わかば高校を拠点校といたしまして、日本語指導が必要な生徒選抜実施校や他の少数散在校への支援を進めてまいりたいとしております。
- ・13 ページをご覧ください。
- ・13 ページには、府立高校の一層の魅力化に向け検討している取組として抜粋したものを一覧に挙げさせていただきます。
- ・ここまでご説明しております学校改革の取組の他、入試改革では、令和 10 年度の入試から、入試日程の一本化や学校特色枠の導入、第 2 志望校の出願といった制度変更を行ってまいります。
- ・広報改革におきましては、マーケティングに基づくブランディングと効果的なプロモーションの促進、デジタル技術を活用した魅力発信をさらに推進していきたいとしております。
- ・加えて、私学と切磋琢磨できるよう、府立高校においても建替えや美装化などの教育環境充実と、学校 I C T 環境の整備を進めることが必要と考えております。
- ・最後に今後の再編整備の方向性についてご説明をさせていただきます。
- ・14 ページ、15 ページからご覧ください。
- ・府では生徒数減少を見据え、活力ある学校作りを目指し、府立高校再編整備方針および再編整備計画を策定しております。
- ・再編整備計画の中では、今後の府内公立中学校卒業生数の推移を踏まえ、令和 5 年度から 9 年度に公表する募集停止校を 9 校程度としておるところでございます。
- ・16 ページをご覧ください。
- ・先ほどもご説明いたしました学校改革を含め、府立高校の改革を進めるにあたっては、大きく変化するであろう将来の社会を見据えて今取り組むべきことを検討することが必要と考えております。
- ・そのため、令和 6 年度中に生まれた子どもが 15 歳に達する 2040 年を見据え、その際の中学卒業生数を試算したところ、今年 3 月の約 75%に相当する約 4 万 9000 人となる見込みと試算いたしました。
- ・この試算値をもとに、2040 年の学校数を、通信制高校を除く昼間学校への進学率や公立高校の受け入れ比率等、現在の一定条件のもと試算させていただいたところ、104 校程度となりました。
- ・17 ページをご覧ください。
- ・府立高校において施設の老朽化についてもやはり進行しておるところでございます。令和 7 年 3 月末時点で築 40 年以上の学校が全体の約 7 割を占めており、うち築 70 年以上は 4 校となっております。
- ・こうした現状を踏まえまして、18 ページをご覧ください。
- ・これまでの再編整備の手法を振り返りますと、既存校舎を活用した統合整備や、同一学科同士の統合というところで、中学生の就学先の確保と、新校における教育内容の充実に繋げる点では効果があつたと総括しておりますが、一方で、中学生や保護者にとっては、新校としてどのように変わったのかわかりづらいということで、やはり刷新感が不十分という課題がございました。
- ・次、19 ページをご覧ください。
- ・これらを踏まえまして、今後の再編整備の方向性と新たな再編手法について検討したところを書かせていただいております。
- ・まず方向性の 1 点目につきまして先ほどお伝えしました通り、今後も生徒数は減少、この傾向が見られ、減少する幅は地域ごとに異なるというところもございます。

- ・そのため、地域ごとに異なる中卒者数の減少と、就学機会の確保の観点、あわせて志願者数や人口減少が進む中であって、専門人材の育成に繋がる専門的な学びおよびセーフティーネットの役割を持つ学校の学びを保障する観点も重要だと思っております。
- ・今後、さらに再編整備を進める上でこれらの観点は、より一層求められるものであります。
- ・しっかり踏まえながら、学校の適正配置、あり方を検討してまいりたいと考えております。
- ・また、方向性の2点目といたしましては、先ほど申し上げました通り、今後の再編整備に当たりまして、新校の魅力・特色をより明確にし、中学生およびその保護者に認知されるような刷新感のある手法について検討してまいりたいと考えております。
- ・具体的には、以下の4項目を、現状考えさせていただいております。
- ・府立高校の減少が進む地域の拠点的な学校の設置や、複数学科の設置、あるいは新校の教育内容の一層の特色化、あわせて施設面でも刷新感を打ち出すための建替え・美装化を行った校舎での新校開校といった新たな手法を検討してまいりたいと考えております。
- ・また、再編整備を進める上で生み出されるリソースを府立高校の教育内容の充実に活用し、再編手法をしっかりと検討して進めたいと思っております。
- ・以上が資料3の説明となります。
- ・学校改革および今後の再編整備の方向性につきまして、意見交換をお願いしたいと考えております。
- ・以上でございます。

(司会・野村企画室長)

- ・ありがとうございます。
- ・それでは、ただいまの内容について意見交換に入らせていただきます。
- ・まず、本日ご欠席の井上委員から、ご意見をお預かりしておりますのでご紹介をお願いします。

(教育庁)

- ・本日、ご欠席の井上委員よりいただいておりますご意見について、ご紹介させていただきます。
- ・私は、エンターテインメント企業の経営に携わっております。
- ・近年、日本のアニメ、ゲーム、音楽、実写映画の需要が世界的に高まり、また、国もコンテンツ産業の育成に力を入れています。そのような背景から、アメリカ、ヨーロッパ、アジア等の地域への出張が多くなっています。
- ・このような立場から、A I と英語の2点について意見を述べさせていただきます。
- ・まずはA I に関してですが、産業界では多くの企業でA I の導入を積極的に推進しています。A I は、業務効率の向上や人間のクリエイティビティの一層の発揮という観点から、非常に有用なツールであります。
- ・一方で、人間でしかできないことが問われており、具体的には基礎学力や教養が求められています。
- ・なぜなら、例えばA I に問いかける際に、的確に自分の考えを伝える必要があります。明確に内容が伝われば良い回答が返ってきます。A I に問いかける内容の幅と深さは、その人の教養に根ざし、A I に正確に伝えるには国語力が必要です。

- ・加えて、A I の回答に過不足や誤りがあるかを見極めA I からの回答を最終的にどう判断するかは、人間に求められる能力です。よって、基礎学力はもちろんのこと、深い教養が求められます。
- ・また、A I を最大限活用するためには、自分自身のやりたいことがはっきりしていることや、こだわりを持つことが大変重要になってきます。
- ・これらのやりたい事やこだわりこそが人間が持てるものであり、これらがあれば、A I をうまく活用し夢の実現に近づいていけると考えます。高校生にはしっかりと勉強して、やりたいことやこだわりを見つけてほしいです。
- ・次に英語についてであります。
- ・ここ数年で、海外とのやり取りが非常に増え、私のチームメンバーは英語できちんとコミュニケーションをとることが求められています。
- ・商談においては、いくら通信手段が進展しても、A I や機械通訳が発達しても、強力な信頼関係の構築のためには、やはり最終的には対面でお互いの言葉で会話をすることが非常に重要です。目の前にいる人に拙くても、自分の言葉で話しかけることで、信頼関係を構築することができます。もし、お互いの母国語が違って、英語でコミュニケーションが取れ、相手の国の文化を理解していれば、相手へのリスペクトが伝わり、パートナーシップが構築できます。
- ・ここでも先に述べたように、世界各国の文化等の教養が求められます。
- ・現在および未来の高校生1人1人が、個性を生かしたキャリアを築き、充実した人生を送れるよう、教育庁のアクションプランをしっかりと推進していただきたいと思います。
- ・井上委員からのご意見は以上となります。

(司会・野村企画室長)

- ・ありがとうございました。
- ・それでは、まず教育委員の皆様で、ご意見ご質問等はございますでしょうか。
- ・どなたからでも結構でございます。
- ・中井委員、ご意見はございますでしょうか。

(中井教育委員)

- ・全体としては非常によくできたプランかなと考えてます。
- ・井上委員がおっしゃった英語教育は以前からずっと課題となっておりまして、学力の差によらず、どの学力レベルでもコミュニケーションが取れるようになるということは、これからグローバル化を見据えて必須のことだと思いますので、どんどん取り組んでいただきたいと思っています。
- ・それとやっぱり今、大きく生徒数が減少するという中で、これも日本全体のことなんですけど、教育のあり方を見直す大きなチャンスかなと思います。とてもピンチではありますけど、チャンスかなと思います。
- ・学校数を減らすことがまず大事なことだと思うんですが、減らすだけじゃなくて、よりきめ細かいフォローができる環境になっていくかなと思います。といいますのは、保護者生徒が、私学にしろ、公立にしろ、高等学校を選ぶ基準としましては、3年間どんな教育をつけてくれるかということと同時

に、自分の子どもの将来、進路ですね。就職にしろ、大学進学にしろ、自分の子どもの将来がどんなふうになるかに非常に興味を持っているわけなんですね。

- ・ですから、出口のところをしっかりとさせてやらないと、いくらこういう教育しますと言ってもそれがニーズに合わなければならぬと私は思いましたので、しっかりニーズを研究していただきたい。そのニーズに合うためには、やはりきめ細かい授業が必要となります。
- ・3年生では、今ではちょっと難しいですけど、人的に余裕ができれば少人数展開をもっと増やすことができますと思います。そうすると生徒たちの将来に繋がる授業ができる可能性があります。
- ・それと今、外国人の生徒が非常に増えております。
- ・多文化共生フォーラムに先だって参加させてもらいました。私は毎年参加してはいるんですが、どんどん増えております。このままもっともっと増えていくと思うんですが、外国人の子どもたちにしっかり教育をしていくことも、これからとても大事になってくるかなと考えています。
- ・拠点校を作って、ということは、とても素晴らしいと思うんですが、さらにはその外国人たちの将来のニーズもしっかり踏まえた、ただ単に日本語を指導するだけではなくて、もっとそれこそ先ほど井上委員が言われたように、多文化、特に日本の文化をしっかりと教えることに取り組む中で、しっかり日本に溶け込んでいくというか、日本でしっかり自分の将来を作っていけるような、そんな環境を大阪府は作っていくべきではないかなと。
- ・そういう転換期に来てると思いますので、外国人の生徒たちに対しても、よりきめ細かい高等学校を作っていく必要があるかなと思いますので、その辺についてもさらによろしくお願ひしたいと思います。
- ・以上です。

(司会・野村企画室長)

- ・ありがとうございます。
- ・他の委員の皆様、いかがでしょうか。
- ・森口委員お願いします。

(森口教育委員)

- ・私は小児科医、子どものこころ相談員として子どもたちに関わっているところから、不登校に関わる施策についてご意見を述べさせていただきたいと思います。
- ・まず、この総合教育会議においては以前にも不登校を取り上げていただいて、吉村知事には注力していただいていることを感謝申し上げます。
- ・臨床の立場で学校に合わない子どもたちを見ていますと、学校という枠組みは昔からずっと変わっていないなど、今まさに感じています。
- ・今の時代において、教育は教えるのではなく、学びの場を提供することであるべきだと思っていますが、学校のあり方や教員の意識において、このことが土台になっているのか、今まさに疑問を感じています。
- ・教師は教えるものであつて子どもは教えられる対象という考え方に教職員自身がとらわれていないのか。昔は学校で楽しいことを学べるから楽しいと感じていましたけれども、今は、子どもたちは様々

なツールを持って学校に行かなくても学べてしまう。その時代において、より学校が楽しくて、先生方が子どもたちとともに学びを提供する、そういう場所にやはり学校は変わっていくべきではないか。それはコロナ禍を過ぎてとても明確になってきたなと思います。

- ・以前はどうしても学校に行かなければならなかったのが、学校に行かなくてもいいよというような言葉の中で、今の学校の学びが子どもたちにマッチしていないのではないのかな、と思うことが非常に増えてまいりました。
- ・先ほどから言われている人口減少というのは、成熟した社会にとってはもうほぼ必然的なものですし、この人口減少をやはり良い意味で子どもたちの教育がより丁寧に、より寄り添ったものになっていくと考えるためには、まず何よりもみんなの前で傷ついた子どもたちとか、それから学校にちょっと勉強がわからなくて来られなかった子どもたちが“学校へ行けたらいいよ、まずやっごらん、やれたらいいじゃない”というぐらいの壁の外し方が、今教育現場に求められているのではないのかなと思います。
- ・そういう意味では、以前にも注力いただいておりますスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、そして教職員の意識の改革だけではなく、スクールサポーターのような地域の方々も積極的に人材として取り入れていく。やはり少人数制、そしてマンパワーの充実がこれからの学校改革に非常に必要なのではないかと考えております。
- ・それについては積極的にご指示、ご意見を伝えていっていただきたいなと考えております。
- ・以上です。

(司会・野村企画室長)

- ・ありがとうございます。他にご意見いかがでしょうか。
- ・竹内委員、お願いします。

(竹内教育委員)

- ・私は大学で外国語教育学を専門とする立場からお話をさせていただきたいと思います。
- ・最初に、海外の姉妹校提携をこの3年間で進めていくという施策が出ております。これは非常に良い施策だと思っています。
- ・直接体験に勝るものはないとは思っておりますので、ぜひできるだけ多くの子どもたちがこのような機会に恵まれるように尽力いただければ、非常にありがたいなと考えております。
- ・また、同時にICT等のテクノロジーを利用して、留学の効果を上げていくということも可能になるかと考えております。
- ・ただ、留学にはリスクがつきものですので、このリスク管理を各学校に任せるのではなく、大阪府として、全体的にリスク管理を行っていくという点は注意していかなければならないかなと考えております。
- ・2つ目は高校の改編の中で国際関係学科等を設置しているLETSと呼ばれる学校についてです。かなり特色を別の意味で出していない限り、生き残りが難しいのではないかなと感じています。
- ・なぜならば、グローバルリーダーズハイスクールとか新しい普通科も同じようなことを始めているからです。この中で特色を出すためには、このLETSと呼ばれている高等学校群は、例えば英語以外

の言語、多言語の習得に乗り出すとか、より高度な英語力を身につけるような授業編成にしていくとか、あるいは国際紛争を解決するためのネゴシエーションのスキルを身につける模擬国連のような活動をやってみるとか。特色をしっかりと出していくことを考え、じっくりとカリキュラムの改編に取り組んでいかなければいけないかなと感じております。

- ・次に日本語の支援が必要な生徒さんが増えているというポイントです。日本語の能力が十分でないために力が十全に発揮できないという非常につらい立場に置かれている子どもたちが増えているというのですが、彼らの能力を日本社会に生かしていくというのは、もう絶対に必要なことですので、ここをしっかりと支援していくことが大切だなと思っております。
- ・また、この際に人工知能、生成系の A I とか I C T を積極的に使っていくことが重要かなと思います。
- ・また、彼らはすぐに日本語を習得せよと言われても、まだ高校生や中学生等ですので学びが早いとは思いますが、そんなに簡単に成果は出ません。その間、英語で授業を受けられるとか、母語で授業支援を受けられるとか、そのような補助的な支援をしっかりと充実していただければありがたいなと思っています。
- ・あとステレオタイプにならないよう、この子たちの就職先を、例えばホスピタリティであるとか介護とか、そういう限定したところだけにせず、幅広い可能性を提供してあげてほしいなと、キャリアの指導を十分にお願ひできればありがたいなと思っています。
- ・最後に、再編の方向性ですけれども、学校数が 32 校減るということなんですが、少子化を考えたときに、ある意味致し方がないかと思うんですが、これと同時に、スクラップばかりでなく、新たなものを作るということを、ぜひ考えていただければありがたいなと思っています。
- ・今までにないこれからの時代に合う学校を新たに作っていく、というようにところにも目を向けていただければ非常にありがたいなと思います。また、これをチャンスにしまして、例えば文科省が取り組んでいる高等学校 35 人学級や多様な生徒の受け入れ、そして個別の学校の特色を出すようなことを、ぜひ進めていただきたいと思いますので、学校が減れば教員の数も減らすんだというような考え方を持たずに、必要に応じて適正に配置していただければありがたいなと思っております。
- ・私の方からは以上になります。ありがとうございました。

(司会・野村企画室長)

- ・ありがとうございます。
- ・それでは、尾崎委員お願いします。

(尾崎教育委員)

- ・私はキャリア教育を実践している立場からお話をさせていただきたいと思っております。
- ・まず、府立高校改革に関わって、ぜひ吉村知事に“大阪府はどのような子どもたちを育てたいのか”という根本のところをお伺いしたいなと思っております。
- ・もちろんアクションプランには、「人生を自ら切り拓いていける人」、「認め合い、尊重し協働していく人」、そして「世界や地域と繋がり社会に貢献していく人」という人物像は描かれているんですけども、ぜひ改革を進めるにあたって、トップからの発信というのが非常に大きな力になってくると思うので。

- ・去年この場で、留学についてお話をされたときに、私の中の解釈では、自分とは違う人、地域、機会に飛び込んでいける人、そういう人を育てていきたいのかなと解釈をして、この1年、生徒とのプロジェクトや先生の研修などを行ってきましたが、ぜひ今日の機会を使わせていただいて、後ほど吉村知事のご意見を伺いたいなと思っております。
- ・その上で、私はアクションプランについて2つご意見をさせていただきます。
- ・1つ目は探究的な学びの推進についてです。
- ・社会の変化から、正解を求めるのではなく、自ら問いを立てて試行錯誤しながら答えを見つけ出していくことが全国的にも増えていますが、やっぱり今の高校教育課程の中で、試行錯誤していく余白だったり、自ら問いを見つけ出せる環境だったり、悩んだときに先生と壁打ちできる体制。そういうものが、現場は非常に頑張っていると思うんですけれども、なかなか作りにくいのが現状かなと思っています。
- ・私も府立高校に探究学習の研修をさせていただきましたけれども、やはり各学校、皆さん悩みながらも自分たちの学校なりの探究的な学びの形というものを作っていかようとしているなと感じました。それがすごく大切だと思っています。
- ・上から降りてきたから探究学習をするのではなく、現場の先生たちが自分たちの学校としてどういう形でやっていくかというのをしっかりと考えて進めていくこと。この探究的な学びのカリキュラムをしっかりと確立することこそが、偏差値でもテーマ分野でもなく、学び方で学校を選ぶという新たな高校選択の軸になりうると思っておりますので、非常に難しいことだとは思っておりますが、学校現場、そして行政ともに後押ししながら探究的な学びの形については、ぜひ推し進めていただきたいなと思っております。
- ・2つ目は時代に即した産業人材の育成についてですが、今、東大阪みらい工科高校とたまがわ高等支援学校と一緒にコラボをして名刺を作るというプロジェクトと一緒にさせていただいていたり、実業高校の課題研究に企業がどうフィードバックができるかというものを教育委員会と議論させていただいているんですけれども、やっぱり公立は学校の学科だったり校種を超えて、そして地域企業というところと繋がりやすい、すぐに繋がれるということが大きな強みだなと感じています。
- ・たまがわ高等支援学校がやっていることに、東大阪みらい工科高校の子たちは、「それは俺たちできないからそこはお願いするよ」と言い、反対に「でもうちの学校にレーザーカッターはないからこの部分は工科高校にお願いします」と生徒自らが役割分担しながら進めている姿を見ていて、やっぱりこれからの新しい学校づくりという中で、1つの学校で閉じるのではなくて、一緒に協働的な学びをしていく。それこそが公立の強みを生かした次の学びの形なのかなと思っています。
- ・それと同時に、「これができたら自分たちでビジネスを立ち上げてみればいいよね」という話をする、ものすごくキラキラした目で、「そんなこともできるんですか」と子どもたちが前向きに捉えてくれているのを見て、この産業人材の育成に当たって、高校時代からスモールビジネスを本番の場でどんどん実践をしていくこと自体が子どもたちの未来に繋がっていくし、今、その場で貢献できるという自己貢献欲求も満たせると思いますので、ぜひ外からの視点を生かしながら、どんどん公立高校には外に出ていく、そういうような形を積極的に進めていただきたいなと思います。
- ・最後になりますが、1つ目も2つ目もそもそも子どもたちの成長を数値化できたり見える化できる結果ではなくて、いかに試行錯誤しているか、いかに「うちにはない、うちではできない。だから、こ

うというような知恵を絞って工夫をして、あのプログラムを作りました」というような、このうまくいかないことというプロセスこそが、これからの広報戦略においても非常に魅力的な発信になっていくと思います。そういうところも含めて、ぜひ広報戦略についても結果ではなくプロセスを大切に進めていただきたいなと思っております。

- ・以上です。

(司会・野村企画室長)

- ・ありがとうございました。
- ・そうしましたら、知事何かございますでしょうか。

(知事)

- ・まず、取りまとめ、ありがとうございます。
- ・そして、尾崎委員からの話もありましたので、そこにも関連するんですけど、これからの府立高校というのはやはり、僕はそれぞれの学校に個性があることが非常に重要になってくると思うんですね。
- ・どういった子どもたちを育てていきたいかという、まさに話もありましたが、これからAIがどんどん広がり、インターネットの社会がどんどん広がっていく中で、自分の頭で考えて物事を理解し、そして発信できる、行動をとれる、そういった子どもたちを育てていくというのが非常に重要になると思います。
- ・もちろん、人それぞれ個性がありますので、配慮を要する生徒についてはしっかりと寄り添った学校を作っていく。それから、グローバルで活躍しようという生徒には、そういったことが実現できるような仕組みを作っていく。あるいは工業系だとか、商業系で独自の技術を身につけたいと思う子どもたちは、学校自体にそういった個性があり、そして設備もあり整った学校があると。
- ・また、通える範囲で地域に根付いた公立高校で学びたいという生徒もいると思います。
- ・そういったことから考えると、やはり今までどちらかと言うと公立高校が同じ「色」であったと思うんです。人口増加社会において大量生産じゃないですけど。僕もそういった公立高校の中で育ってきましたけれども、これから人口が減少していくので。そしてまた、いろんな技術が発達していく社会で活躍していくということを考えると、それぞれに個性とその役割をしっかりと持った学校を目指すべきなんだろうと思うんですね。
- ・1つの成功事例でいくと、これは僕が大阪市長時代のこともありますが、水都国際という公設民営の学校を作りました。当時はいろいろ反対もありましたけど、今振り返ってみたらその生徒たちが、例えば万博ですごく活躍していたり、積極的にいろんな活動をし、そして今は海外の大学に入学する資格を得る試験のために頑張ってるんです、という生徒さんが僕にこないだ話をしに来てくれたりもして。いよいよこういった生徒が出てきたのかなと思うと、やはり水都国際というのは非常に個性的な学校だと思うんです。そういったそれぞれの子どもたちに合った個性のある学校を目指していくべきだと思うんです。
- ・人口減少で再編するのは1つのいいきっかけでもあり、子どもの数が4分の1減るわけですから。これはもう生まれた子どもの数が決まっており、15年後の子どもの数が決まっているわけで。それに見合わすと100校ぐらいたというのが今の教育庁の試算だったので。

- ・であるならばそこをめがけて、その学校の個性とか公立高校の役割は何だろう、ということを考えた学校がどんどん増えて再編をしていくということが重要なんだと思います。
- ・総じていくと、自分からどんどんいろんなことにチャレンジしていけるような、そんな子どもを育てていく、それこそが教育なんだろうと思うんです。
- ・もちろん勉強ができるできないとかレベル差はあるにしても、いつか社会に出たときに何らかの壁にぶち当たるわけで。そのときに自分の頭で考えて乗り越えようとする力を身につけて行くことが重要だと思います。
- ・もう1つは配慮を要する生徒とか、私学もそういった教育をどんどんしているところはあるんですけど、私学じゃなかなか難しいという生徒の受け皿となる学校を作っていくことも公立高校の役割なんだろうと思うんですね。
- ・今、支援学校は非常に増えてます。それ以外の高校は少なくなっていますが、支援学校は逆に需要が増えて、今学校を増やしていっているような状況で。支援学校まではいかないんだけど、配慮が必要な生徒さんも増えてきて、こういったところはやはり私学ではなかなか難しいと思いますから、こういったことの受け皿を作っていく。
- ・あるいは北野などの、グローバルで活躍したいという子どもたちが大阪中から集まってみんな切磋琢磨している学校も、もっと伸ばしていくべきだと思いますから。
- ・公立高校としての役割とそれぞれの個性を持った学校をこれから再編していく中でも作っていく必要があると思うんです。
- ・だから保護者からすると自分の子どもがこうだから、あるいはその子ども自身も自分はこう考えるから、自分に合った学校はこれじゃないかというのを選んでいける、そこじゃないかなと思うんですね。
- ・大阪府は都道府県でいくと全国で2番目に狭いエリアで、しかも交通網もある程度整っていますから、全エリアが通勤圏・通学圏なわけですよ。
- ・例えば、大きな都道府県になってくると日本海側、瀬戸内側があったり、山があったり。通学するのも困難だというようなところは、全国にたくさんあるわけです。大阪府もないわけじゃないんですけど、そうしてみればやっぱり平野で、そして狭いエリアで交通網も整っていると考えた時には、その学校の個性を生かした自分の行きたいなと思う学校があれば、学校に個性を持たせれば、より充実した教育が実現できるエリアでもあると思います。
- ・もう1つは地域校というか、地域の公立高校で地域に根ざして住んでいきたい、生活したいという生徒さん。その地域で通える範囲とはどのぐらいなんだろうと考えながら、地域の中核校とか拠点校というのをしっかり作っていく。
- ・そういった視点で、今後再編を進めていくべきなんだろうと思います。
- ・あと1つポイントなのは英語だと思っていて。どの分野でも必要だし、いろんなことにチャレンジするマインドをつけるという意味でも英語というのは非常に重要で。
- ・先ほど竹内委員からもありましたけれども、全公立高校に海外の姉妹校を作ると方針を出しました。これは必ず進めていってもらいたいし、全公立高校留学制度をやると方針で示したのでそれは進めていってもらいたい、期限を区切ってやっているの。
- ・話の途中で申し訳ないが、進行状況はどうですか。きっちりやり遂げてもらいたいなと思うんですけど。

(教育長)

- ・総合教育会議で知事からお話がありました大阪府の姉妹校交流に関しましては、今現在、交流校数が45校、対象者数が令和7年度でいいますと900名が既に今年度対象となっています。つまり、生徒1人当たりに10万円を限度として支援金を交付している人数が今900名います。
- ・主な交流先としましては、時差の影響もありまして、オーストラリア、ニュージーランド、台湾、韓国、アメリカ、タイ、ベトナム、フィリピンなどが挙げられております。
- ・今後のスケジュールとしましては、まさにこの夏、府立高校生が既に短期留学を開始しておるんですが、同時に来年、再来年も引き続き、姉妹校提携を結んでまいりますので、大阪府立学校海外交流支援センターの運用を今開始しているところです。
- ・以上です。

(知事)

- ・全校姉妹校を締結するっていうのは、何校ぐらいで、何年ぐらいで完了する予定ですか。

(教育長)

- ・3年かけて全てを結びます。今現在で45校プラスαです。

(知事)

- ・3年は僕が目標数値として掲げた数字なので、その通り進んでるという理解でいいですか。

(教育長)

- ・はい、初年度はそうに進められました。

(知事)

- ・今1年目かな。

(教育長)

- ・はい、1年目です。

(知事)

- ・来年度、再来年度でしっかりとやり遂げてもらいたいと思いますし、僕らもできるところはバックアップしていきますのでお願いします。
- ・あと、今日は教育委員の先生方から教育の中身についての話が多かったのです。それはぜひ受けて、また反映していつてもらいたいと思います。
- ・私も先ほどまで申し上げた教育の中身の話なんですけど、もう1つ重要なのが、環境面なんだろうなと思うんですね。
- ・1つは、入試改革。これはこの通り進めてもらいたいと思います。

- ・入試でやっぱり問題だなと思うのは公立高校単願制なんですけど、よく考えたらおかしい話で、公立を1校しか受けられないから公立か私立かになっていて。もしどうしても公立を受けたい子は、本来ここを目指さないような私立も受けるとか、本来公立に行きたかったのにやっぱり行けなかったという制度はやっぱり違うんじゃないかなと思っているので。それはどこに最終的に理由があるのかといえ、単願制じゃないかなと思うんです。
- ・なので、複数校出願できるようなことは重要だと思います。どうしても公立に行きたいなという生徒さんは必ずいらっしゃいますから、複数出願制は必ずしっかり制度設計してやってもらいたいと、入試改革はしっかりやってもらいたいと思います。
- ・進捗はどうか。

(教育長)

- ・入試制度改革に関しましては3本の柱で、まずは大阪府が全国に比べて、私立の出願から公立高校の発表までが全国的に一番長く、その分受験生の負担が多かったのも、そこを短くしていきましようという時期の話と、2点目が、まさに知事が先ほどおっしゃったそれぞれの学校に個性を持たせていくべきだということは、裏返して言うとも求める人材がそれぞれ違っていい。つまり入試の問う問題がそれぞれあっていいということです、いわゆるアドミッションポリシーに適した、各学校の特色を採入するというのが2つ目の柱として掲げてます。
- ・そして3つ目の柱が、先ほどおっしゃっていただいたような、公立のいわゆる第2志望以降の拾い上げ、そういう思いを持った子どもたちをどのように拾っていくかということ、これを制度として、既に議決をいただいているところですので、令和10年度からスタートできるようにしっかり説明を尽くしていきたいというステージです。

(知事)

- ・ぜひ入試改革は、しっかり方針どおりにやり遂げてもらいたいと思いますからよろしくお願いします。
- ・それから、環境でいくと、AIの話もありましたけどICT環境が非常に重要だということで、1人1台端末の更新も近づいてくると思います。
- ・全国でも同じような課題が実はあって、1人1台端末を導入したのはいいけど、そろそろ更新の時期だよなと。公立高校の子どもたちの更新について保護者負担を求めるのか、あるいは役所で税としてやるのか、どちらなんだというところで、保護者負担を求める都道府県も結構多くある。皆悩んでるところだと思うんですけども、特に高校は。
- ・ここについては、大阪府は保護者負担を求めない、大阪府としてやると僕自身も判断しましたが、そこは今、どういう進捗状況ですか。

(教育長)

- ・事務局から詳細わかりますかね。

(教育庁)

- ・現在のリース期間が来年の秋までになっておりますので、来年の秋以降に更新するにあたって、やり方については引き続きリースがいいのか、購入がいいのかとかあると思うんですけども、その時期にはしっかり更新できるように、今調整しています。

(知事)

- ・はい、お願いします。これをやっていくと、生徒の学ぶ環境とか I C T がある程度整ってきていると思います。次に僕の中でこれをやらなければならないと思うのが、学校そのものの環境をより良くしていくということなんです。
- ・寝屋川高校は今建替えしています。当然全部の建替えは難しいですが、リニューアル、あとは特別教室の空調。普通教室は空調を設置しているし、体育館も皆が使う体育館は設置してますけども、化学室とか特別教室の空調。建物自体が古くなってるので、ここをリニューアルするというのはやるべきだと思うんです。
- ・今よく考えると、皆さんが住んでいるマンションの団地とかでも一棟をそのまま建替えとか、僕らも府営住宅でももちろんやってますが、今内装技術がすごく高くなってきていて、美装化すると実は新品と変わらないぐらいの家ができたり、躯体を残したままというのは結構民間では普通にあること。ならばそれを学校でもできないのかなと思っていて。学校の耐震性は基本あるわけじゃないですか。
- ・もちろん一番大事なのは安全性なので、耐震基準を満たした上で、ものすごく古くなっているのは建替えだけでも、建替えすると当然時間もかかるし、建替え用地は別のところが必要だということもあると。そして、まだ耐震性があれば躯体としてはもつというところがあるのであれば、その内部を綺麗にしていくことは、子どもの学ぶ環境という意味では非常に重要なんじゃないかなと思ってます。
- ・一部ではやり始めてるとは聞いてるんですけど、その状況を教えてもらっていいですか。

(教育長)

- ・まさに建替えのところは 8 年から 10 年どうしてもかかってしまうところもございます。予算面も、もちろんありますので。
- ・やはり今いる子どもたちの満足度を高めていくとなると、知事がおっしゃったように教室であるとか廊下の内装リニューアルはとてもいい手法だなと思ってます。
- ・ちなみに昨年度、夏休みを利用しまして 2 校、実際内装リニューアルを行いました。
- ・YouTube の方にも上げてるんですが、三国丘高校と泉大津高校、大変綺麗になってます。
- ・子どもたちの声を聞いたところでも、よくやってくれました、ありがとうございますという声は聞いています。
- ・なお、今年度のこの夏でも 3 校、内装リニューアルを進めているという状況です。
- ・やはり今後、この内装リニューアルという手法をもう少し予算を取っていったら広めていければと検討しています。
- ・なお、食堂も内装のところに当てはめていってはどうかなと、魅力化という意味合いでは大切な要素かなと議論をしているところです。

(知事)

- ・その時にトイレあるじゃないですか。トイレはこれまで洋式トイレに90%以上するというので3年計画を立てて実際やってくれているんだけど、ケースによってはトイレの中身だけ全部綺麗になっているところがある。洋式化はするんだけど、昔ながらのタイルというか、僕らが使ってきたようなトイレのままとかも結構多くある。
- ・トイレの床を綺麗にするのでも生徒の快適さというのは変わってくると思う。この辺りは内装リニューアルの時にはそこまでやるのか。

(教育長)

- ・内装リニューアルとトイレは別の議論で切り離しては考えてはいるんですが、洋式化が令和8年度末で92%、ここを達成しようと今進めております。
- ・ただ、ここで達成をして府立高校のトイレ問題は終わりかというところではなく、今知事がおっしゃったような、やはり湿式のトイレは臭いもなかなか残りますし、ちょっと薄暗い雰囲気にもなりますので、乾式の床の明るいトイレを、洋式化の次の施策としては我々としても検討していく必要があると考えてます。

(知事)

- ・15年後の数をみたときに、徐々に130校が100校ぐらいになっていって再編していく必要がある。個性のある学校を作っていく、教育委員の先生方から受けた意見を聞きながら教育内容を充実させていくことに加えて、教育施設整備にちょっと僕自身力を入れたいなと思ってまして。これも順番にはなるけど全校やったらいいんじゃないかな。全公立高校。ただ、再編はしていく。再編はしていくんだけど、全公立高校やってもいいんじゃないかと。
- ・実際にどのぐらい美装化されてリニューアルされてるのかというのを、ちょっと現場で見たいなという思いもある。高校生の声は聞いてるんです。例えば、床も含めて壁とかも綺麗になって、非常に気持ちよくなって快適になって、気持ちが晴れやかになったというような声も聞く。それは結構大切なことだと思うので、滞在時間長いですし。
- ・なので、それがどのぐらいのものになってるのか、現場を視察したいなと思う。

(教育長)

- ・ありがとうございます。

(知事)

- ・段取りしてもらっていいですか。

(教育長)

- ・わかりました。
- ・内装リニューアルしたところが、この夏含めて5校になりますので、知事に実際ご覧いただいて、子どもたちの声も聞いていただければ嬉しいです。

(知事)

- ・実際見て、これ本当にいいなと思ったら全公立高校でやろう。再編はするけど全公立高校でやっていったらいいんじゃないかな。

(教育長)

- ・確かにアクションプランをお示しして、2040年のイメージする校数がここでイメージできましたら、当然建替えというところをしっかりと計画的に進めていきながら、今できる手法としては、内装リニューアル、おっしゃるように私も大切なと思いますので、しっかり事務局の方でも財政議論も含めて、前向きに検討していきたいなと思います。

(知事)

- ・ちょっとまず現地視察の日程を組んでもらえますか。

(教育長)

- ・わかりました。

(司会・野村企画室長)

- ・ありがとうございます。
- ・様々、ご意見出ましたが、最後何かありますでしょうか。

(知事)

- ・教育委員の先生方からのご意見に対して事務局から何かありますか。それか教育委員の先生方から事務局にこれ聞きたいとかあったらなんでもいいですけど。僕にでも全然いいんですけど。

(教育長)

- ・尾崎委員、先ほど知事にご質問されましたが、その返答としてはいかがですか。

(尾崎委員)

- ・本当に公立高校は、誰が、どの先生が来ても同じことができるようにというような、その基準ですごく苦しんでいる先生たちも多かったので、自分だからこそできるということこそが、先生たちのやりがいにも繋がり、それがイコール教員になりたいという人たちも増やしていくと思うので。
- ・学校もそうですし先生たちも個性を出している。それこそが子どもたちの個性を伸ばすことなんだとどんどん発信をしていって教育改革を進めていければなと思いました。
- ・ありがとうございます。

(知事)

- ・先生の負担を減らすということは重要だと思うんですけど。学校自体が個性化して先生がやりがいを持ってやっていただく。やっぱり子どもたちを育てたい、教育したいというのが先生になる動機なの

で。それができれば先生のやりがいにも当然繋がると思うんです。元々そういう思いでみんな教員を目指されてなっている訳なので。

- なので、それができない環境だとストレスが溜まると思うんですけど、それができる環境であれば僕はやりがいにも繋がってくると思うので、学校が個性を持つてというのは1つの重要なファクターかなと思うんです。
- もう1つはやっぱりもう少し先生方の負担を減らすために、今いろんな策を取ったりもしています、部活の議論もしましたし。それもあるんですけど、例えばさっきの議論で出ましたけど発達してくるA Iとかを活用して何かできないかな、先生の負担を減らす。
- 例えばチャットもA I自体を教育すれば、定型的な保護者からの質問とかもA Iが対応できるんじゃないかなと思うし。もちろん保護者と向き合わないという意味じゃないんだけど、保護者対応でも定型的なことがたくさんあると思うので、そこを全部先生が対応しているとやっぱり大変だし、じゃあA Iで対応できるところがないのか。あるいは何かプリント作りとかでもA Iを使えば、結構賢いしね。今、本当にいろんなツールがたくさんありますよ。
- この間の万博会場で地下鉄が止まったときに、夜中に発信したんですけど、振り返ったら英語でも発信した方がよかったなと思っていて。横山市長がやってたんですけどね。その後、別のときに英語をつけたんですけど、万博翻訳アプリ使ったら一瞬なんです。一秒でできて、こういう使い方だなと思って。
- 先生方も、英語に変換するときは、A Iを使うと自分でやる作業をずいぶん減らせるんじゃないかな、しかもかなり正確だし。定型的に先生の負担を減らす方法で使えないですかね。

(教育長)

- すごい大切な視点だなと思ひまして、今先生の仕事の中でもやはり、校務系と授業学習系に切り分けたときに、校務系はA Iでずいぶん置き換えることができるんじゃないかなと見てます。
- 授業学習系のところも、もちろん置き換えるところはあると思うんですが、まずそこを我々大阪府が、このA I時代、ゲームチェンジャーじゃないですか、このA Iは。これをどういうふうに学校現場で使っていくと実があるのか、逆にリスクはどこにあるのかを、もう少し本格的に研究していく必要はあるなと思ひております。
- 今現時点では大阪府教育委員会の組織は、それぞれの課の中に、こういうI C Tの部門がそれぞれあって有機的に連携してる状態ですので、やはりそこを突き詰めていこうと思ひたら司令塔機能が、大阪府教育委員会の中にも必要なのかなと。
- 今知事おっしゃたようなところを研究していくためには必要なのかなと考えてます。

(知事)

- 先生方の負担を減らすために、ここを合理的にすればいいんじゃないかという視点を常に持つてもらいたいと思いますので、よろしくお願いします。

(教育長)

- はい。

(司会・野村企画室長)

- ・ありがとうございます。
- ・そろそろお時間が参っておりますが中井委員、ご意見ありますでしょうか。

(中井委員)

- ・知事がいろいろおっしゃったこと、本当にありがとうございます。
- ・学校の施設、設備の整備は本当に遅れているところがあると思いますので、しっかりやっていただきたいなど。やはり大阪府は私学無償化、これは素晴らしいことだと思うんですが、一方では私学と公立が切磋琢磨する時代になりましたので、私学に負けないような施設整備も大事かなと思います。
- ・それと先ほど竹内委員がおっしゃったように、崩すだけじゃなくて新しいものを作るということですよ。
- ・大阪の教育は昔からずっと同じような感じかなと思います。だいぶ以前に、総合学科を文科省が設置したときに他府県はこぞってですね、総合学科の学校を作りました。それを私は地方をいろいろ見て回ってすごいなと思いました。先進的だなと思うことがいっぱいありました。
- ・大阪はお金がないということで、できませんでした。しかし、これだけ学校が減ってくると多少余裕も出てくると思いますので、全く新しい学校を作るということも大きな転機かなと思います。
- ・大阪市さんが作った、咲くやこの花でありますとか水都国際とか素晴らしいと思うんですよね。
- ・ああいう全国にないような学校も大阪で作っていて、大阪の教育はすごいなと知らしめて、日本の教育をまさにこの大阪が引っ張っていくような、こんなことになれば私は嬉しいなと思います。
- ・学校改革・入試改革・広報改革の3本柱がございますが、一方では、卓越性と平等性と多様性ですかね、これを大阪は大事にずっとしております。
- ・多様性、卓越性、平等性、この辺は非常に重要ではありますが一方ではグローバルリーダーズハイスクールも設置されてる。
- ・これも大阪の素晴らしい、他府県から羨ましがられている部分でもあります。
- ・やはりこれからのグローバル化の中で、日本を支える人材の育成も公教育の中でやっていくべきかなと思いますので、グローバルリーダーズハイスクールだけでなく、卓越性を、どう生徒たちを育てていくか。
- ・知事も言われましたように、本当に考える力を持った、そんな世界をリードする人材を大阪の地が育てるということを、これから先に目指していけたらいいなと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- ・以上でございます。

(司会・野村企画室長)

- ・様々ご意見出ましたが、お時間も参りましたのでこの辺で議論を終えたいと思います。
- ・以上をもちまして、令和7年度第1回大阪府総合教育会議を閉会いたします。
- ・本会議の議事内容は後日、大阪府ホームページに掲載させていただきます。
- ・本日は長時間に渡り、誠にありがとうございました。

以上